

自動車整備3団体合同

新年懇親会を開催

ACTIVE KUMIAI



年頭の挨拶をする荻原理事長

(社)山梨県自動車整備振興会・山梨県自動車整備商工組合・山梨県自動車整備政治連盟(荻原公明会長・理事長)は平成23年1月22日(土)甲府富士屋ホテルで「自動車整備3団体役員等合同新年懇親会」を開き、自動車整備業界の役員ら約170人が出席した。

荻原理事長は、挨拶で「環境、低燃費等へ対応した、高度な電子装置を備えた自動車の普及に対し、新技術整備の習得やユーザーとのコミュニケーション、説明能力等が求められている。自動車整備業界は自動車の安全確保、環境の保全及びコンプライアンスの強化といった社会的使命の達成に努めなければならないが、整備売上高の減少と各事業所の取り巻く環境の厳しさが増す中で、今後、長期使用車の車両整備需要をどのように掘り起こしていくのか、整備事業に対する様々な課題が山積している。その中で、今年12月には自動車整備振興会は創立60周年となり還暦を迎える節目の年でもあり、引き続き業界内部が一致団結し、活性化を目指した組織運営を行って参りたい」と挨拶した。

来賓として出席した、関東運輸局山梨運輸支局川口千晴支局長は「車は大きく様変わりする。電気自動車、燃料電池車の普及は予想より早くなるのではないか、急速充電器などインフラ整備が重要となってくる。安全安心が必要であり、整備の仕方、技術の習得など重点的に行っていかなければならない。未来に向かって、自動車整備事業は、大事な役割であることを確信している」と述べた。

また、来賓の中央会内藤悦次会長は「まだまだ日本経済は、依然として厳しく低成長の中にあり、今年の活動テーマに掲げた不撓不屈精神で、荻原理事長を中心に組合の原点である共同の力を結集し、どんな困難にも立ち向かい頑張りましょう」と激励した。懇親会では出席者は情報交換をしながら親交を深めた。



情報交換をして親交を深める